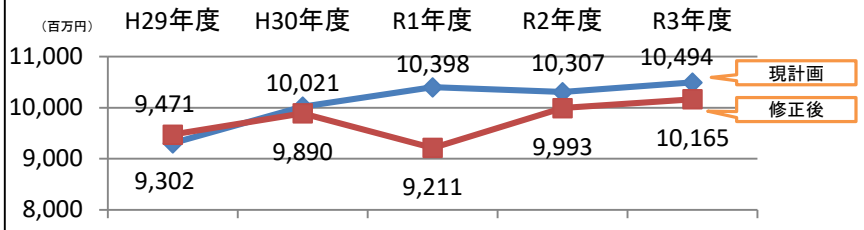


## 市立旭川病院 収支計画見直し説明資料①

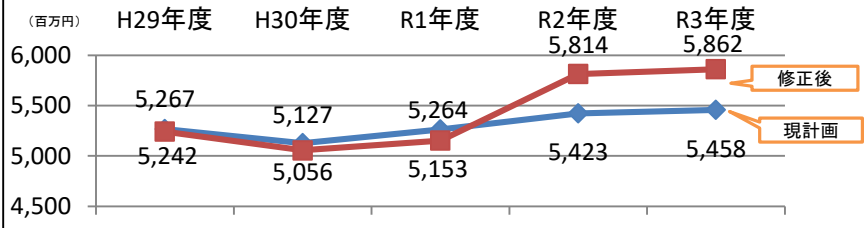
## 料金収入



## R1年度は計画より大幅に減少するも今後は回復を見込む

- R1はH30より産婦人科の入院休止やイメージ悪化などによる患者数の減により、大幅に減少する見込み。
- R2は産婦人科の入院再開や神経内科等の医師の増加に伴い、回復していくものと見込んでいる。

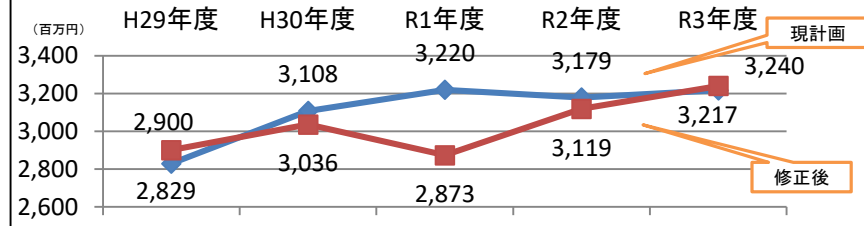
## 職員給与費



## R1年度は医師・看護師の不足で減少，R2からは会計年度制度で増加

- R1は医師・看護師の不足で計画より減少している。また、看護師不足によりR2年度には1病棟(38床)を休床する見込み。
- R2以降は給与削減の終了及び会計年度任用職員の制度開始で増加。
- また、従来は経費として計上していた臨時職員分の給与も職員給与費として計上することとなったため、計画より大幅に上昇している。

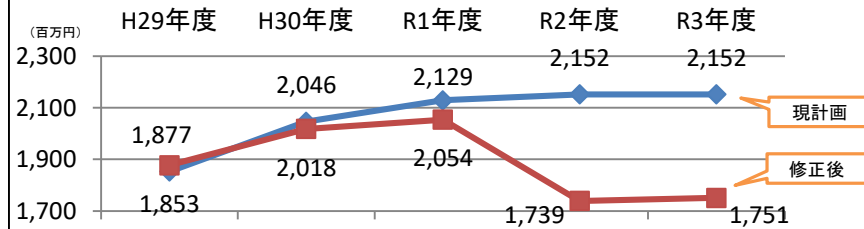
## 材料費



## R1年度は収益の減に伴い，計画より大幅に減少

- R1年度は収益減の影響により大幅に減少している。
- R2年度以降は収益の回復に合わせ、現計画並みに増加する見込みとなっている。

## 経費

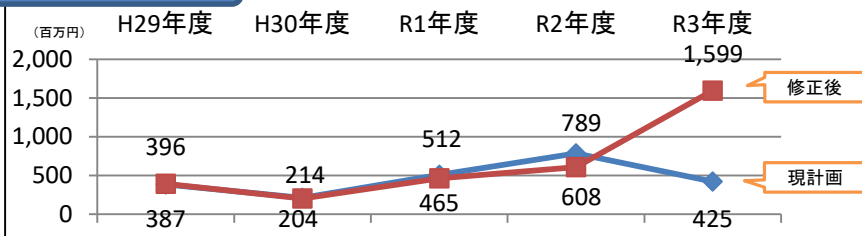


## 会計年度任用職員制度により，みかけ上は大幅に減少

- 会計年度任用職員制度により、今まで経費で計上していた臨時職員分の給与を、給与費に計上することとなったため、大幅に減少している。
- R2にダヴィンチの契約更新を予定しており、今まで建設改良費(購入と同じ経理方法)で計上していたリース料を、経費で支出することとなったため、一部増加しているが、そのほかは概ね計画どおり推移している。

# 市立旭川病院 収支計画見直し説明資料②

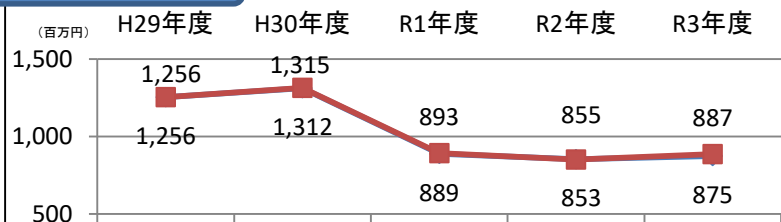
## 建設改良費



## R3年度に電子カルテの更新費用として、約11億円を見込む

- H30は建物の更新工事を1年繰り延べたため、減少している。
- R2は放射線治療器械機器の更新を先送りしたこと、ダヴィンチの費用を経費で計上することになったため、計画より減少している。
- R3は電子カルテの更新により、約11億円の費用を見込んだため、計画から大幅に増加している。

## 企業債償還金

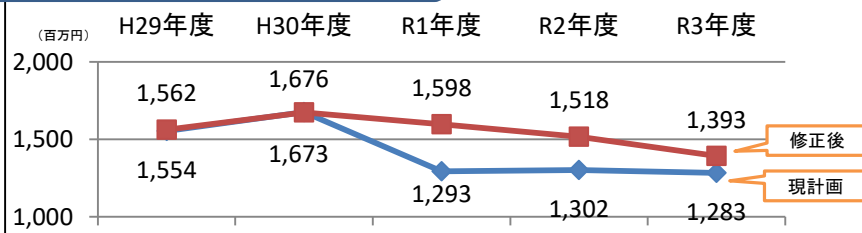


※30年度の借換額は除いているため、収支計画の表と一部一致していない。

## 借換えの効果により計画どおり減少

- H30に建物に係る企業債を、計画どおり借り換えることができたため、R1から減少している。
- R3に電子カルテを更新することにより、R5からは大幅に増加することを見込んでいる。

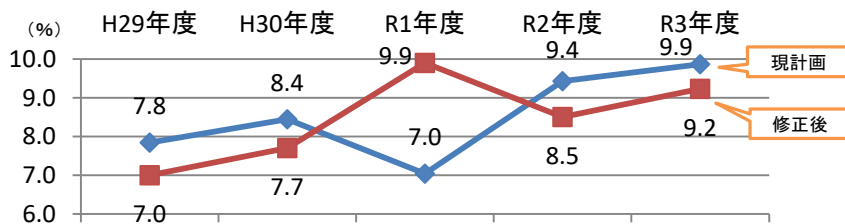
## 一般会計からの繰入金合計



## 収支の悪化により、R1・R2年度は基準外の繰入金を予定

- 企業債の借換えに伴い、繰入金は減少する見込みであったが、収支の悪化により、R1に3億円、R2には1.5億円の基準外繰り入れを行う予定。

## 資金不足比率



## 繰入金により、資金不足比率10%超は回避

- 基準外の繰入金により、資金不足比率が10%を超えることは回避できる見込み。
- しかしながら、資金不足の解消は難しく、当面は10%を超えないことを目標に、経営努力を続けていく。